
Dirty twin blood

神童サーガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Dirty twin blood

【Nコード】

N2952F

【作者名】

神童サーガ

【あらすじ】

腹黒い双子が活躍(?)するストーリーです双子や作者以外は皆ヤラレキャラです

(前書き)

初めて作った短編です。ちょっと(?)グロいので苦手な方は
オススメ出来ません。一応はギャグですが・・・

コノ世界ハ何ノ為ニアルノダロウカ

生キル意味ハ？

私達ハ、ソナ世界ガ醜クテ嫌イダ

私ガ信ジラレルノハ貴方ダケ

血肉ヲ分ケタ貴方ダケ

多分・・・

貴女モ同ジデシヨウ

「ねえ・・・ここは？」

「・・・知らないよ」

小さい身長（同じ高さ）の似たような・・・いや、同じ顔が呆然と

立っている。

一人は、髪が腰まであるから女の子だろう。

もう一人は、肩までの長さだけど多分・・・男の子だろう。

年齢は小学生の低学年というところだろうか。

二人の顔が似てるということは双子・・・と考えるしか無い。

「ねえ・・・サクラ君」

「なに？スイちゃん・・・」

どうやら、姉が水仙で弟が桜。

何となくだが、普通に考えれば逆じゃないかと思う。

しかも、花の名前ときた。

なんと随分安易な考えだ。

「私達は作者に暴言を吐くつもりは無い」

「・・・だって僕達の“一応”親だしね」

「だけど“一応”親でも悪口言われたら許さないから」

早速毒舌が来ましたか・・・

見た目は天使のような双子だけど、中身は真っ黒な双子です。

「それより、ここはどこなの？」

「見た目は荒野みたいだけど・・・」

そうでした。ここは、貴方達が元いた世界とは非にてならざる場所
なのです。

簡単に言えば魔法が当たり前の世界です。

「・・・そんな事どーでもいいわ」

え!?

「僕達に敵う奴はいないから」

「そういう事よ」

・・・そうっすか。

別に最強な訳じゃないのにね。

「最凶なのよ」

「スイちゃん・・・」

「どうしたの? サクラ君」

「あそこで誰かが倒れてるよ」

目の前に倒れ込んでる男が・・・
どうやら餓死寸前なのだろう。

「・・・どうする?」

「決まってるじゃない」

おっ。偉いな!!

人助けか!!

「シカトよ」

「そっだね」

はあああ!!?

普通は助けるでしょう。

スルーですか?

なんと憐れな餓死者だ。

(作者も救う気は無いのか?)

「慈善を起こしてもその人のためにはならないわよ」
「っーか面倒だし・・・」

あの・・・サクラ君？

一応キミは腹黒いが純粹の天然クンだったんですが・・・
まあいいや。

「無視しねーで助けるや！！」

「・・・」

「いつてー！！踏むなー！！」

双子は餓死寸前の男を“わざと”“思いっきり”踏み付けて歩いて
ます。

その時に

ゴキツバキツグシャツ又ギャッ

と変な効果音が聞こえたのは、気にせずに・・・

「作者もシカトすんじゃないわー！！」

「・・・うるさいわよ。」

「・・・廃棄処分されたい？」

双子は周り（双子の身体から）黒いオーラのような煙を出しながら
餓死寸前の男を睨んだ。

男は何も言えなくなり、顔を真っ青にした。

「そつだ・・・近くに町ある？」

「いや・・・あの・・・その・・・」
「さつさと言いなさい？」

どこからかナイフを取り出した水仙。
男は直ぐさま答えた。

「あ・・・南の方に・・・あります」
「そう・・・」

双子はお礼を・・・言わずに（！？）男の言った方に歩いて行った（こういう所は純粹に信じてるんだね）

「・・・あんまり人を信じんのも良くねーぞ？」

双子の背後から男のどす黒い声がした。
双子は嫌そうに振り返った。

「これだからガキは・・・まあ扱いやすくして良いけどよ」
「山賊だったりするんですか？」
「こつやって倒れていればバカな奴が引っ掛かるんだよ」
「・・・」
「なんだ・・・怖くて声も出ねーか？」

卑しい笑い方をする男。
何となくムカつくが・・・

「ねえ・・・」
「ああ？」

「・・・」

黒いオーラは、今まで以上に膨れ上がり水仙の顔すら見えなくなつた。

桜は被害が及ばぬように離れた。

「アンタみたいなゴミは・・・消去・・・消去消去消去消去!!」

ナイフを横に切り付けた。

男は、何も言えずに落ちた。

正確には男の首が落ちた。

水仙はナイフで斬つたのだろう。

返り血は浴びずに全て終えた。

「大丈夫？」

「・・・ええ。行きましょう」

この双子の秘密は、語り継ぐことはあるのだろうか。

(後書き)

どうでしたか？この連載を考えてます。出来ましたら読んで頂きたいなと・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2952f/>

Dirty twin blood

2010年10月9日17時39分発行